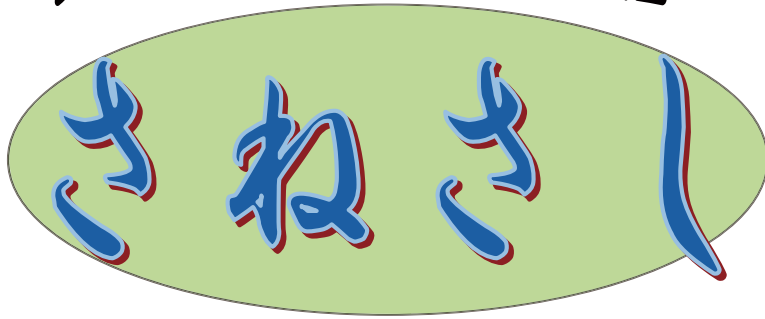




発行

平成28年6月11日

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

刀傷の銅像と一遍上人立像（市指定文化財）

当麻山にある時宗の大本山「無量光寺」の山門を少し進むと一遍上人の銅像が立っています（写真1）。頬がこけ眼光鋭い風貌で合掌しています。正面からは分かりづらいのですが、よく見ると右頭部に刀の傷跡も見られます。硬い表情ですが、ほぼ実像に近いそうです。

お寺には三体の一遍上人像が伝存しており全て合掌して称名をとる遊行像です。そのなかで当寺のご本尊となっている「一遍上人立像」は、高さ159.2cmの寄木造り、ほぼ等身大です。上人が自ら頭部を刻み、他の部分を二祖真教らがつくったとあるが定かではありません。しかし現存の一遍上人像としては最古のものと考えられ、毎年10月23日の開山忌にはご開帳されています。

一遍上人は、文永11年（1274）36歳の時、妻子（母娘とも）を伴い再出家・遊行の旅に出ます。全国を回り念仏勧進と賦算（お札配り）を行う遊行の始まりです。この様子は国宝「一遍聖絵」に詳しく描かれています。

「無量光寺」と「熊野権現」

世界遺産熊野は一遍成道の地。熊野権現から「信不信をえらばず、浄不浄をきらわず」の信託を受け悟りをひらいた所。以後、一遍と名乗り妻子とも別れて遊行に邁進します。貧富や身分に関係なく民衆の中に入り訴える取り組みは人々の心を打ち、やがて熊野信仰にも発展していきます。

こうしたいきさつから時宗では熊野社を祀る所が多く、無量光寺境内にも熊野権現社があります（写真2）。また、相模原愛川・IC近くにも、当地の関山家の祖先が上人を慕って勧請したとされる熊野大権現と熊野稻荷が祀られており、古来「オクマンドウ」と尊称されています。無量光寺は、一遍上人や実質上の時宗宗祖・真教上人によって初期時衆の拠点・聖地となり、江戸時代には「当麻道場」と呼ばれ朱印三十石を与えられた歴史あるお寺です。

（南部班 松永）

目次

- ・刀傷の銅像と一遍上人立像…… P 1
- ・考古班の活動報告 …… P 2
- ・亀ヶ池八幡宮旧本殿が市指定文化財に …… P 3
- ・石老山ハイキングで顕鏡寺へ… P 4

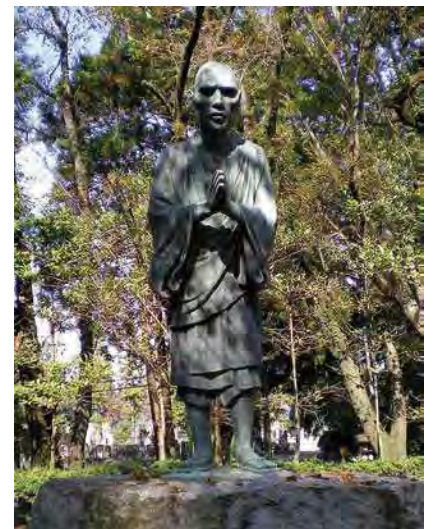


写真1 無量光寺の一遍上人銅像



写真2 無量光寺の熊野権現社

考古班の活動報告

考古班は相模原市文化財調査・普及員制度の分野別班として、平成17年(2005)に発足して以来、昨年で10周年を迎えました。現在20名が所属しています。当班のモットーは「楽しくやろー!」と「お互いに学び合おう!」です。最近の考古班の活動としては、定例会を毎月(1月と8月を除く)第2木曜日に総合学習センターで開催しています。

内容は、座学として①毎月の情報交換、②上期/下期にそれぞれ3回ずつ講師をお招きしての考古・歴史・文化等の受講があります。屋外活動としては、年に数回のフィールドワークによる遺跡や博物館巡りなどがあります。

これらの活動の中で、3年間のフィールドワークについて報告します。引率者は当初光廣氏、その後は村上氏です。平成26年度(2014)は、①5月20日「群馬の森・観音山・製糸場巡り」、②11月20日「東京の上野・谷中巡り」、③3月26日「東京の中野巡り」の計3回でした。

平成27年度(2015)は、①4月23日「東京都国分寺市武蔵国分寺跡など巡り」、②5月28日「東京都東村山市八国山の遺跡など巡り」、③10月29日「東京都国立市谷保の遺跡など巡り」、④11月26日「埼玉県所沢市砂川遺跡など巡り」、⑤3月24日「東京都杉並区善福寺川の遺跡など巡り」の計5回でした。

次に、今年は、①4月28日「東京都港区 芝・高輪の遺跡巡り」を終えました。この日は雨でしたが、赤穂浪士47人の墓所に近い京急泉岳寺駅を下車、江戸城下町入口の「高輪大木戸」脇を抜け、ビルに囲まれた「伊皿子貝塚跡石碑」(写真3)を見学しました。この付近まで縄文時代後期は海だったようです。尚、大森貝塚も地理上、この延長線上に存在します。ここの貝塚剥ぎ取り層と出土品は、区立港郷土資料館(写真4)に保管・展示されていました。貝類を加工・処理する場所だったようです。ハイガイ・マガキが主体で「ハマ貝塚」(註

1) といいます。同様な貝塚は北区の「中里貝塚」があります。尚、この遺跡に重なるように柄鏡形敷石住居跡が発見されました。この屋根葺材はアズマネザサが確認されていま

す。因みに、日本に存在する貝塚は、約3,000カ所もあるといわれます。

ここから徒歩5分程の所に「三田台公園」があり、伊皿子貝塚の貝塚断面と竪穴住居が復元されています。

次に、慶応大学を抜けて北に進むと増上寺手前の芝丸山古墳・丸山古墳群の脇に、縄文時代後期のハマ貝塚(註1)である「丸山貝塚」があります。更に、北方の東京タワー近くにも後期の「西久保八幡貝塚」があります。

②5月26日「東京都板橋区石神井川の遺跡巡り」です。今後の予定は、③10月27日「東京都大田区荏原台古墳群巡り」、④11月24日「東京都千代田区江戸城巡り」などです。

註1. 他の動物遺存体や人口遺物などの生活ゴミが乏しい貝塚。逆に、生活ゴミの多いのは「ムラ貝塚」といわれます。

(考古班 駿河)



写真3 伊皿子貝塚跡石碑



写真4 伊皿子貝塚の剥ぎ取り貝層

訪ねてみませんか 亀ヶ池八幡宮旧本殿が市指定文化財に

亀ヶ池八幡宮（中央区上溝）の旧本殿が、平成28年4月1日付けで相模原市指定文化財に指定されました。このことを西部班は大変うれしく思っています。

西部班は、上溝地区や田名地区を中心に、星が丘、清新、横山地区を活動のフィールドとして、文化財のパトロールや、石造物の調査、寺社の見学などを続けています。特に上溝地区は、鳩川、姥川、道保川の水と横山丘陵などの緑に恵まれています。また、旧石器時代から人々が生活し、多くの遺跡、石造物、寺社などの建造物や伝承などが残されています。それらを訪ね、先人の生活を偲ぶことは、人々の連帯を深め、郷土の未来を考えあうことにもつながると考え、西部班の有志が平成26年度から一年半をかけて、歩きながら楽しく上溝の歴史や伝承などを学べる「かみみぞウォークマップ」を作製しました。自治会を通じて配布するとともに、市内の公共施設にも広く配布しましたので、ご覧になられた方もいらっしゃると思います。

このマップを活用して、これまで田名公民館、上溝公民館、国指定史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館などが主催する「歴史ウォーキング」が開催され、西部班が支援しています。ガイドをしていると、参加されたみなさんは、訪ねたそれぞれの場所で様々

なことを学ばれた様子ですが、中でも亀ヶ池八幡宮の境内の屋外に建つ旧本殿は、これまで社の奥に鎮座しており、なかなか見られるものではなかったため、関心が高まったようでした。

北相模総守護社 亀ヶ池八幡宮では、鎮座800年を記念して平成26年8月、新しい社殿が建築されました(写真6)。それに先立って、平成24年に『相模原市史 文化遺産編』の刊行に伴う旧本殿の調査が実施され、棟札むなふだの詳細な調査により、建築されたのは文禄5年(1596)であることが判明しました。

神社の建築様式で、桁けたと行ゆきの柱間が一間となるいつけんしやながれづくり一間社流造の本殿は、建築年代の分かっているものとしては県内で最古の本殿といわれています(写真5)。このたびの新社殿の建築に伴って境内の屋外に移築し保存され、市の文化財に指定されたものです。ぜひ、悠久の歴史を感じられる旧本殿を訪ねてみてはいかがでしょうか。

(西部班 永山)

「かみみぞウォークマップ」やウォーキングのガイドなどについて、ご希望のある方は下記までご連絡ください。

上溝を学ぶ会 代表 島田虎明
電話 042 (761) 2894



写真5 亀ヶ池八幡宮旧本殿



写真6 亀ヶ池八幡宮新社殿



図1 亀ヶ池八幡宮位置

石老山ハイキングで顕鏡寺へ

高野山真言宗顕鏡寺は、石老山（標高 702 m）の中腹にあり山号は石老山です。

お寺の縁起は 851 年の草創といわれ、岩窟を住居としていた源海法師が 874 年寺を創立したと云われています。

上杉清著作『散策のしおり 石老山・顕鏡寺』によると文徳天皇の御代に八条左大臣の姫君と三条大臣の長子「武庫郎」（後の道志法師）が恋におち、馬に乗って落ち延びて住んだところが岩窟であり、そこで生まれた子が後の源海法師と伝えられる。

天明年間（1781～89）に火事があって寺を焼失しましたが、その後、建て替え等行われ現在の五十三世住職に引き継がれております。近世までは『小児虫留加持^{しょうにむしどめかじ}』が有名で関東一円、甲州一円から参詣者が多かったようです。



写真7 木造阿弥陀如来座像

寺の本尊は「虚空蔵菩薩」、他に「十一面観世音菩薩」（津久井観音霊場 14 番札所、6 年に 1 度御開帳）、そして「木造阿弥陀如来」（非公開）が鎮座しております（写真 7・8）。

平安後期の仏像様式の「木造阿弥陀如来座像」は相模原市有形文化財に指定されています。寄木造で温和な表情、丸く自然に張る頬、身体各部の柔らかな肉付け、浅く控えめな衣文などに特徴が見られます。

山門左側階段を登ったところに道志法師、源海法師が住居とした岩窟が有ります。天然に造られた家屋に驚きます。この中には「福一満虚空蔵尊^{ふくいちまんこくぞうぞん}」が安置されております。

同じく山門左側に県の名木百選の樹齢 400 年以上と云われる「イチョウの樹」や根が 2 本露出し蛇が横たわっているように見るところから「蛇木杉^{じゃぼくすぎ}」と云われる樹があります。

石老山は東海自然歩道の一部で途中、名が付けられた巨岩、奇岩があります。

滝不動、屏風岩、仁王岩、駒立岩、力試岩・文殊岩、蓮華岩・大天狗岩、鏡岩・小天狗岩、吉野岩、擁護岩、

試岩、八方岩などです。

また津久井湖、城山が一望出来るところや相模湖方面が見えるところなど眺望の良いところがあります。

（津久井班 土屋）



写真8 十一面観世音菩薩

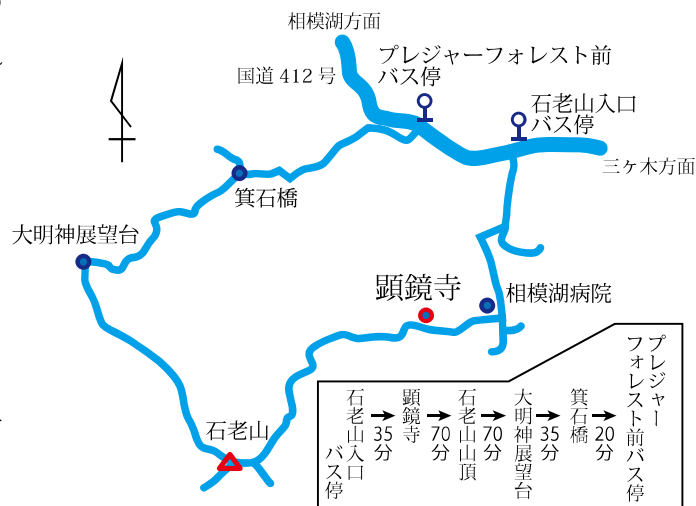


図2 顕鏡寺位置